

# 健康メモ

## 子宮筋腫に対する子宮動脈塞栓術(UAE)について

広島市医師会理事  
広島鉄道病院放射線科部長

市木 敏夫

子宮筋腫は成人女性の四人に一人に認められ、女性の骨盤腫瘍のなかで最も頻度の高い良性腫瘍です。従来から、経過観察、対症療法、ホルモン療法、外科的手術など多くの治療法がありますが、近年、子宮動脈塞栓術(以下UAE)が安全で有効な治療法として、海外はもとよりわが国でも広く行われるようになっていきます。



ル)を子宮筋腫を栄養する両側の子宮動脈まで挿入した後、塞栓物質を注入して子宮動脈を塞栓する治療法です。治療の適応は、子宮筋腫由来の症状があり、対症療法やホルモン療法で制御が困難、閉経前で妊娠をしていないこと、子宮癌検査が陰性であること、患者さんが外科的手術を望まず、将来妊娠・分娩を希望しないこととされています。

UAEの利点は、きわめて低侵襲で子宮を温存できること、入院期間(通常は三泊四日程度)が短く、早期に社会復帰ができることがあげられ、八五〇%の患者さんで治療効果が得られます。手技の成功率は血管造影や塞栓術に熟練した放射線科医が行えば、九五〇%で、合併症も外科的手術と比べると低く、比較的 안전한治療法とされています。ただし塞栓術後に一過性に必ず強い疼痛を生じ、硬膜外麻酔などによる

強い鎮痛治療が必要となります。その他の短所として、一〇〜一五%程度で無効であること、X線被曝があること、長期成績が不明なことなどがあげられます。さらに現在は健康保険の適応外であるため、自由診療(自費治療)となっています。本治療後の妊娠・出産に及ぼす影響は十分に解明されていませんが、治療後に妊娠が確認された方は全世界で一〇〇名以上いることが報告されており、不妊症の治療として本治療に取り組んでいる施設もあるようです。今後はUAEの長期成績を評価し、未解決の問題を解決するとともに、学会主導で早急に保険適応にしておく必要があります。

この治療の詳細に関しては「子宮筋腫、子宮動脈塞栓術」でインターネット上で検索してください。